

普及活動情勢報告（平成29年6月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

産地間で情報交換！～土佐甘とう生産者交流会を開催～



現地ほ場視察の様子

5月18日、南国市の促成土佐甘とうハウスで現地視察が行なわれた後、会場を移して生産者交流会が開催され、管内からは生産者31名が参加しました。

現地ほ場視察では、炭酸ガス発生装置導入ハウス等2ヶ所を視察しました。生産者交流会では、生産者から、「冬場の単価を上げてほしい」「規格を統一して消費者に判別してほしい」「知名度が低い」等の意見が出ました。

農業改良普及課は、こうした県内各地の情報を活用して今後も土佐甘とうの夏秋産地である津野山地域での生産振興に向けて、関係機関と連携して取り組んでいきます。

施設ミョウガの腐敗対策へ！ ～ミョウガ腐敗対策プロジェクト会の開催～



対策を協議、検討

6月19日、J A土佐くろしお資材センターで、今年度1回目のミョウガ腐敗防止対策プロジェクト会を開催し、J A土佐くろしお、農業技術センター、専技が参加しました。

農業技術センターからは、近赤外線照射や給液管理方法の違いによる腐敗や水やけ症対策の取り組み、農業改良普及課からは培地冷却の試験などについて、これまでの取り組みと今年度の取り組みについて報告、検討しました。

農業改良普及課は、これからのミョウガの需要期に向け、J A、関係機関と情報共有しながら、腐敗対策への取り組みを強化・支援して行きます。

農産物事故ゼロを目指して！～J A津野山営農センター集出荷場版GAPの実施～



作業台の明るさを計測中

5月24日、J A津野山、園芸連、農業改良普及課がJ A津野山営農センター集出荷場で、第1回目の集出荷場版GAP点検を行いました。

参加者からは、初めて集出荷場のGAP点検活動をする者もいて、毎日、何をどのように記録をして残していけばいいのか等の質問が出されました。

集出荷場のGAP点検活動を協力して行うことで、日々の点検の役割分担をきちんと決めることが必要なことや、作業台の明るさが十分であることなど、GAP実施にかかる体制整備やチェック項目について、互いに確認することができました。

農業改良普及課は、今後、定期的に関係機関とともに集出荷場のGAP点検活動を行い、農産物事故ゼロを目指し、支援して行きます。

大野見米のブランド化を目指して ～県大生と連携した田植え体験の実施～



学生が手植えの田植えを体験

6月3日、中土佐町大野見の「おおのみエコロジーファーマーズ」会員ほ場で、高知県立大健康栄養学科学生（COME☆RISH）の田植え体験が行われ、会員6人、COME☆RISH学生32人、講師3人が参加しました。COME☆RISHは大野見米のブランド化を支援しており、販促に生かすため実際に大野見米の稲作体験を実施しています。

農業改良普及課は手植えの指導を行い、学生からは「農家の苦労がわかる」「収穫が楽しみ」、農家からは「毎年学生が来てくれてうれしい、今後も連携を続けていきたい」などの声があがっていました。

農業改良普及課は今後も、エコロジーファーマーズの米のブランド化を支援していきます。

関係機関が連携し年間計画を策定！～JA土佐くろしお管内農業振興連絡協議会の開催～



各PTの報告を元に年間活動計画を協議、了承

5月24日にJA土佐くろしお管内農業振興連絡協議会を開催し、JA土佐くろしお管内の営農・販売担当、関係市町、農業振興センター職員が参加しました。

農業改良普及課は、農業関係の地域振興策、品目毎の振興策、農産物の販売対策に関する各プロジェクトチームの年間活動計画の作成をリードして本会に臨み、活動計画が協議、了承されました。

これにより、関係機関が連携し、一体となって産地の振興を進めていく計画となりましたので、今後は、この計画を実現させるため、各PTの活動を着実に進めていく予定です。

地域の意見を普及活動に活かそう！！～普及推進協議会の開催～



地域の意見を普及に反映

6月7日、農家、関係機関13名の参加を得て、第1回須崎地域農業改良普及推進協議会が開催されました。平成29年度の活動計画について説明を行うとともに、今年は「労働力確保対策」をテーマに構成員の皆様にご意見をいただきました。委員からは、「ミョウガとキュウリの組合せで労働力を補完し合えないか」「出荷場で不足が著しくJAと生産者の情報共有が必要」という意見が出ました。

産地では、労働力確保は喫緊の課題であり、農業改良普及課は、今後も現場の意見を大事にし普及活動に活かしていきます。